

# 令和元年第 1 1 回定例会会議録要旨

◆開催日時 令和元年 11 月 29 日（金） 午後 3 時 00 分開会

◆開催場所 国富町農村環境改善センター C 会議室

◆出席委員 豊田暎光 二上由美 海老原千浩 山本憲一 陶山光秀

◆欠席委員 なし

◆出席職員（事務局） 大矢雄二 松岡徳 福嶋英人 日高健一郎 中武瞳

◆会議録署名委員指名 二上由美

◆議 案 議案第 30 号 令和 2 年度国富町立小・中学校入学式について

◆教育長報告要旨（11 月 1 日～11 月 30 日行事実績）

新任教育委員が本日初めての定例会教育委員会となります。どうぞよろしくお願いいたします。なお、前教育委員の任期交代により、新たに教育長職務代理者を決めないといけないということになります。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」の第 13 条第 2 項によって「教育長に事故があるとき、又は教育長が欠けたときは、あらかじめその指名する委員がその職務を行う」とありますので、教育長の職務代理者を指名するということになっております。互選ではなく指名ですので、私の考えとしては経験の長い教育委員に教育長職務代理者になっていただこうと思っています。

私に何かあったときは、教育長職務代理者となりますが、新しい教育委員会制度になる説明の中で、非常勤である教育委員が代理できない時には、常勤である教育委員会の事務局職員に委任することができるかと決まっております。変わったばかりですので一応確認しておきました。

## ①教育総務課

○11 月 5 日（火）教育委員感謝状贈呈式及び辞令交付式

退任される前教育委員長の長年教育委員として務めていただいた功績に対する感謝状の贈呈と、新教育委員への辞令交付を町長から行っていただきました。

○11 月 11 日（月）学校支援訪問

教育委員にも参加していただいて、木脇中学校の学校支援訪問が行われました。何かありましたら後ほど感想をお願いします。

○11 月 13 日（水）市町村教育委員と県教育委員との意見交換会

教育委員に参加していただきました。何か報告がありましたら後ほどお願いします。

○11月19日（火）中学生講演会

小林さやかさんを講師に迎え、3校全ての中学生を対象にアリーナくにとみで行われました。演題「ビリギャルが伝えたいメッセージ 誰だって原石」ということで、成績がビリだったけれど、そこから慶応大学に合格するまでの体験談を通じて、中学生みんなもいろんな考え方で努力して頑張れば誰でも光る才能があるという話をされました。講師紹介でも話しましたが、今までで一番若い講師でした。生徒にすごく好評で、生徒が求める講師とはこういうものかと感心させられました。確かになかなかいい話でした。

○11月28日（木）社会科副読本編集委員会

教育対策監を中心に各小学校から8名の先生方に集まっていただきました。教科書が変わるのに合わせて国富町の事を学ぶ副読本「わたしたちの郷土 国富町」を2年がかりで作ります。令和3年度から使用する副読本の編集をこの日からスタートしました。

②社会教育課

○11月17日（日）国富町地区対抗ソフトバレーボール大会

アリーナくにとみで100名余り18チームが参加して開催されました。今回は男子1部・2部、女子1部・2部の4つの種目それぞれ優勝したところが違っておりました、塚原・犬熊・太田原・六日町東が優勝したようです。

○11月23日（土）・24日（日）国文祭プレイベント 演劇「幸せの王子」

国民文化祭の1年前に行われるプレイベントが土曜日に2回、日曜日に1回の合計3回町立図書館で開催されました。同じ劇団・脚本家でやっていただき、合計で240人程の参加人数でした。国富町内で組織する劇団員の方々と脚本演出家により1年後にはまた演劇をするということになります。

教育委員 中学校の学校支援訪問に行かせていただきました。先生方が大型モニターをフルに活用されていて、子供たちが興味を示すような工夫がされている授業でした。

子供たちが意欲的に授業に参加して素直に聞く態度をすごく嬉しく思いました。子供たちが積極的に先生に質問や分からないところを聞いている姿を見たのですが、学校訪問のときだけ聞くというのはなかなか難しいので、常日頃子供たちが聞きやすい雰囲気作りを先生方がされているのだなというのを感じました。それが当たり前のことなのですが、まず先生と生徒の信頼関係ができているのだなということで安心しました。エピペンを常備しないといけないアレルギーの生徒さんがいたことと、ゲーム依存症ということで配慮が必要な生徒さんが授業中寝ていたのに先生方も注意されないのが何故なのかと気になったのですが、校長先生より後から説明がありまして、ゲーム依存症ということで夜眠れていないということでした。このアレルギーの生徒さんとゲーム依存症の生徒さんの先生方の共通理解と専門機関との連携がしっかり取れていまして、個別の配慮ができていくことを聞きまして、やはり保護者との面談等も行っていましたし、そういう面では一生懸命されているなと安心しました。

教育長 ゲーム依存症の生徒については、教室の一番後ろでずっと寝ているところを見ると

何か言いたくなりますが、昼くらいになると起きていきいきとなるということで、あれを止めたら恐らく学校に来なくなると思います。夜遅くまでゲームをしているので昼夜逆転となり学校へ来ても昼前ぐらいまでは寝ているのですが、それをどうするか学校もずいぶん葛藤がありました。

教育委員　ゲーム依存症の対策マニュアルみたいなものは全国・県にないのですか。学校任せということですか。

教育長　国・県の対策マニュアルは出ておりませんから、ひとりひとり違うため、学校で対応するというところで共通理解しながら先生方もどうするのか決めているところです。

教育対策監　最近になってゲーム依存症ということ自体が薬物依存と同じようなメカニズムだということが認められたので、これからの対策ということになると思います。

(中略)

教育委員　依存症の子ども対応はわかりますが、周りの子に対してはどのような呼びかけがしてあるのでしょうか。先生達は分かっているけど仕方ないと対応していても、他の子供たちも夜遅く何かして眠たい子もいるかもしれないけど、彼だけは許されることがちゃんと分かっているのでしょうか。

教育長　細かく聞いてはいませんが、恐らくこうだろうというのはあると思います。皆で話し合っって学級の一員として受け入れるということが基本にあるので、いろんな理由でなかなか学校に足が向かない子供は学級に入りやすい雰囲気を作っていく中でお互いに了解を得ているのでしょう。私達は学校訪問した際にたまたま見かけたのでびっくりしましたが、毎日見ている子供達は後で昼休みに元気に遊んだりしてすごくいい子だからと認め合ったりしている部分があると思います。

恐らく先生方と学級の子供たちとずいぶん話し合っていると思います。彼は寝ていてもいいという形にはなっていないようでした。

食物アレルギーについて気になっているのですが、学校給食の中に含まれるものでアレルギーの原因となるものはどんなものが多いですか。また、アレルギーを持つ子どもに対してはどんな対応をとっていますか。

福嶋所長　小麦、牛乳等の乳製品や卵、エビ、カニもアレルギーの原因になります。

小麦アレルギーの場合ですと、小麦粉までダメならパンの日は除去食になると思います。主食はお弁当を持ってくることになります。代替食の子供でエピペンを持っていること自体ほとんどいませんが、1～2名程です。

教育長　主食はもちろん、おかずで何かアレルギー原因になるものが入っている場合は、代わりのおかずをその子用に届けることになるのですね。

そのエピペンには家にはもちろんありますが、机の中にも入れて、保健室にも置いていますので、何かあったときにはすぐに対処できますが、修学旅行の時などは、そういう対処ができないので、大変だと思っています。

教育委員 アレルギーのある子供が修学旅行に行ったことはあるのですか。

教育長 アレルギーのある子供も修学旅行には行きます。その場合は、すごく配慮が必要です。給食ではどんな成分が入っているか献立表をみれば分かるので配慮できますが、修学旅行での食事では前もって何らかの連携をとっていると思います。

13日の市町村教育委員と県教育委員との意見交換会についてどういった意見があったのか報告をお願いします。

教育委員 今回の意見交換会では、まず話題となったのは、いじめの問題についてでしたが、非常に忙しい状況の中で先生達がすさんできており、忙しさに追われすぎて何かゆとりがないため、今の状態では子どものいじめはなくなるのではないかと思います。やはり教師というのは教育のプロですから、教師の倫理観とかモラルをもっと高めていただきたいと県の方へお願いをさせていただきました。先生達の心が豊かで余裕があれば、子ども達を見る目というのも緩やかになるでしょう。やはり、先生方がギスギスしていると子供達は敏感なので子供もギスギスになってしまうと思いますので、お願いしたところです。

次に話題となったのが、教育と福祉の連携はできないかということです。準要保護の決定をするときに民生委員の考え方とかいろいろ聞いたりするけど、結局福祉関係の方の方が情報を握っている。教育委員会に上がってくるものは事実がはっきり目に浮かばない文書だけで具体化されて表れないことがあるので、その部分も知らなければ判断できないとの意見が出ていました。福祉は福祉、教育は教育となっていたら、いつまでも問題が解決しないのではないかとということで、他町の教育委員の方と一緒に連携についてお願いさせていただきました。

最後の話題は、中学生の宮崎市への流出が止まらないということです。これには県の教育委員の方も驚かれていました。

これまでこの会は、県下一斉で行われていたのですが、今回は宮崎市と綾町と国富町で絞って行われたので、お互いの意見を話しやすい雰囲気、結構密に話げたような気がします。この形になって本当に感謝いたしました。

教育長 県内全部の市町村をいくつかに分けて県の教育委員がそれぞれのグループに入るというやり方が多いようでしたが、今回は中央地区一市二町の意見交換会でしたので、いろんな突っ込んだ話しができたということのようであります。ご質問ご意見ありましたらお願いいたします。

教育委員 最後の方に言われた教福連携は実際あるのですか。始まっていることは始まってい

るのですか。

教育長 国富町は、いろいろやっていますが、福祉との連携で取り組んでいることは、ハートフルネットワークも一緒にしますし、子どもの様々な問題についても保健介護課と一緒に入っています。教育の部分だけではなかなか家庭に入れられない部分があるけれども、保健師等と一緒に入って話し合う場というようなことが国富町ではなされています。

大矢課長 一端を紹介しますと、準要保護のことをおっしゃいましたが、他の市町村の準要保護の基準を出すときに要保護の1割増しで所得を計算して判断していますが、国富町の場合はいくら所得の証明を出しても現在の所得はどうかを調べたりだとか、福祉の方から教育方面の相談をすすめてもらったり、民生委員の方々に教育委員会から協力していただくようにもお願いしてあります。

教育長 準要保護認定の方では民生委員と連携をとってこちらでは把握できない意見を参考にします。もうひとつは対策監の方で、ケース会議やスクールソーシャルワーカー辺りについて取組み事例等何かありませんか。

教育対策監 私も県、宮崎市、2年前から国富町に勤務していますが、国富に関して言えば、学校と福祉の連携ではものすごく進んでいる気がします。保健や福祉の課がよく動くからです。保健師の方々がどんどん学校に入っていきますし、そのケース会議では学校、福祉課、スクールソーシャルワーカーや学校に配置されているスクールカウンセラーあたりで、かなり大きな規模で一人の子に対して頻繁な回数でやっています。そういう点でかなり進んでいると思います。宮崎市辺りでは逆に学校数が多すぎるのでそこまで手が回せない現状があると思います。

また、県の方で配置してくださったスクールソーシャルワーカーは、まさに学校と福祉を繋ぐ仲介の役割を果たしてくださっていますが、国富に配置して下さっているワーカーはものすごく精力的で、今日も家庭的に問題があって不登校気味の子のお母さんから相談したいと電話がありましてその家庭の方に行っておりますけれども、本当に熱心に動いていただいていますので、そういう点でも連携はよくできているのかなと思っています。

教育委員 配慮が必要とされた子に対してはソーシャルワーカーの方達が動いてくださるけれども、そのように判断されていない子についてはあまり連携されていないのですか。

教育対策監 各学校では校内の先生方で定期的に情報交換をしていますが、それが不登校等の問題になってきて初めて福祉を入れたりしています。ハートフルネットワークだとかそういう場ではもちろん全員で気になる子供達の情報交換を行っています。

大矢課長 関連しまして、保健介護課ではずっと乳児健診からやっていますが、5歳児健診時の情報を就学时健診にもってきて、保護者の方が心配されている部分の聞き取りを行ったり、特別支援が必要な子どもの保護者への就学前相談の案内等をしてもらったりしています。

巡回相談では特別支援学校の専門の先生方が学校を回られます。

(中略)

教育委員 たとえば、保健師さんたちの中でこの子どもは特別支援の学級に入った方がいいとかいう指導もあるのですか。教育支援委員会でもそういう指導があるのですか。

教育長 保健師、医師、特別支援学校の先生等が入っている教育支援委員会の中で、保護者の考えや衛生環境まで含めていろんな細かい状況を保健師から報告してもらい、学校へ繋ぐこととなります。

(中略)

教育委員 先ほど国富はかなり進んでいると言われましたが、国富のような小さなエリアの中だから可能なんじゃないかなと思いました。それを宮崎県全体のモデル地区として国富町の教福連携は進んでいることを伝え、より一層クオリティをあげていく方向に皆で実行していけば良いと思いました。私は農業をやっていますが、10年ぐらい前から農福連携というのがあります。試行錯誤しながらではありますが、現在どんどん発展していった状態です。教福連携もどんどん発展させていき、国富町の教育を盛り上げていただければと思います。是非、国富町に住んで子育てしている特権というような感じで進めていただきたいと考えました。

教育長 ハートフルネットワークも初めはモデル事業で、県から国富町で受けしてもらえないかということで、学校や医師、福祉機関、警察等を繋いだネットワークを作ろうということで10年くらい前にモデル事業として始まったものです。

教育委員 児童クラブや児童館と学校との連携というのはどのようになっていますか。児童クラブや児童館では、学校で見えない部分が見え、児童館の先生が把握している情報というのは結構あると思いますので、情報がもらえるといいと思いますが、どうですか。

大矢課長 放課後ということで一応学校を離れており、児童クラブに委ねていますので、今の状況がどうなのかは調べてみないとわかりませんが、もしこの情報が必要な情報であれば繋げるように検討させていただきたいと思います。

教育委員 私が今児童クラブの担当をしていますので、実際学校との連携というのはなかなか取れていないのが現実です。よほどのことがない限りケース会議等に児童クラブの先生が呼ばれるということまずありませんが、学校の先生達が児童クラブの先生達を使

っていただけたら良いと思います。私達は親と直接会っているので、私達が間に入って保護者と学校の連携を繋いでいくというのもひとつの方法ではあるのかなと思います。保護者と学校の先生方が誤解している状態を保護者から聞くことがあります。そこをうまく学校の先生方から伝えていただければ、その誤解も解けたりできるので、そこは連携を取っていただいてうまく児童館・児童クラブを利用していただくの良いと思います。

教育委員 学校と児童館は役場での担当は何課でしょうか。

教育長 管轄する部署は確かに違いますので、学校は教育委員会、児童館・児童クラブは福祉課になります。役場でいうと課で分けられますが、そこをいかに連携していくかということが求められるわけです。

(中略)

教育長 児童館だけではなくて、それぞれが持っている情報を共有するという部分は、今日の話し合いの一番良かったことではないかと思います。それはすべて子どものためです。子どものためということを見ると、その情報を一緒に共有していくことは本当に大事なことだということでもとめたいと思います。

岡山の全国学校給食研究協議会大会で印象に残っていることをお願いします。

福嶋所長 岡山駅隣接の岡山コンベンションセンターで開催されましたが、全国から給食の関係者の方、県、市町村職員など850人程がみえていましたが、優良校の給食の表彰やシンポジウムや講演会がありました。また、先進地の給食の事例を聞く機会がありました。そこでは、学校の栄養摂取基準に基づき、実際に体重・身長を測定してデータをとり、必要なカロリーになるように給食を提供しているという発表もありました。レベルの高い取組みで大変勉強になりました。

衛生管理の面でいうと、手を洗った前後が蛍光色でわかるような機器をセンターに導入してきちんと手を洗えているか可視化して汚れを落とすことを意識付けするようにしているところもございました。いきなりは難しいですが参考にしていきたいと思ったところです。

(中略)

教育長 図書館で行われた国文祭のプレイベントの状況はどうでしたか。

松岡課長 中学生以下は無料でしたが、6割以上は一般の方の来場でした。エンディングに来年開催する井戸川伊兵衛のコマーシャルを映画風に宣伝していただいて非常に有意義なプレイベントだったと思います。

教育長 来年11月22日が国民文化祭のメインとなる日で国富町では3つのイベントが

ありますが、そのひとつがこの演劇です。

教育委員 19日の中学生講演会の費用、講師選定等はどのように決めているのですか。今回私の娘が講演を聴いてかなり良かったと言っていました。子ども達皆が「楽しかった。やる気が出た」と言っていましたので。

大矢課長 今回は若い講師でどうかと思っていましたが、子ども達が目をキラキラさせて最後まで聴いていました。中学生全学年が聴くわけですが、ジャンルを3つに分けて3学年のうちにひとつずつのジャンルが聴くことができるよう配慮をしています。講師の方はそういう選定方法で行います。

教育長 講演会には、かなり力を入れていまして、親向けの子育て講演会、先生方向けに教育講演会、今回の中学生講演会があります。特に中学生講演会は評判がいいので小学生にも聞かせて欲しいと言われるぐらいです。毎年、良い講師を呼ぶことができています。中学生講演会は、3年に1回ずつやる気スイッチを押してくれる人の講演、福祉や命をテーマにした講演、将来の夢や生き方をテーマにした講演ということで講師を選定しています。今回も予算はかかりましたが、子ども達が喜んでくれたのであれば嬉しいです。どの学年でどの分野の講師になるかは分かりませんが、来年はやる気スイッチを押してくれる人を選定する予定です。

#### ◆議事要旨

##### 議案第30号令和2年度国富町立小・中学校入学式について

国富町立小・中学校入学式の期日を国富町立学校管理運営規則（平成14年国富町教育委員会規則第8号）第14条第1項の規定に基づき、小学校入学式を令和2年4月10日金曜日、中学校入学式を令和2年4月8日水曜日に定めるものです。国富町立学校管理運営規則14条で入学式は4月10日までに行うものとし、期日は教育委員会が定めるものとなっております。

【原案のとおり承認】

#### ◆その他

◇行事予定について 各課行事予定表に基づき説明

◇コンプライアンスの遵守に関する緊急校長会について

◇町議会一般質問内容について

◇令和元年度国富町立小・中学校卒業式について

国富町立学校管理運営規則第14条第2項により、卒業式は、小学校は3月23日以降に、中学校は3月16日以降に行うこととなっており、学校長が教育委員会の意見を聞いて定めます。本年度は、小学校卒業式につきましては、令和2年3月25日水曜日、中学校卒業式につきましては、令和2年3月16日月曜日に行います。

◇教職員の働き方改革（子どもと向き合う時間の確保）について

先生側が子ども達ひとりひとりとふれあうような時間がなく、多忙だとすっかり子供たちを見ることができないので、真剣に先生達の働き方改革をすすめないと成り立たないと思う。



先生方は、さまざまな方面で本当に多忙で、国の働き方改革の方針としては休みなさい、ゆとりを持ちなさいということですが、現実的には国の方がいろいろ仕事を増やしてくるというか、行政でいうスクラップアンドビルドではなく、スクラップしないでどんどん持ち込まれて、教育委員会も現場の先生方も本当に多忙となっています。国もやるのであれば、人・物・金をちゃんと確保した上で下ろしてもらおうとありがたいと感じています。

(中略)

本当に表面的な時間だけの働き方改革にしてほしくないと思います。学力テストが入ってきてから先生達のいろんな姿を見てきましたが、不思議に思うところもあり、そもそも学力テストが必要か。その分の経費を教員増加の分に充ててはどうかと思います。なぜ学力テストをしないといけないのか、その結果にこだわる先生方が増えている。表面的な点数ではなく、本当の学力というか知恵というかそういうものを育てるとというのが本当ではないのかと常々思っています。

県の基本方針は知・徳・体の調和の取れた人間の育成ですから、すべての子どもにとっては、心の面、健康の面、知（学力）の面もやらないといけません。国富町教育委員会だけが学力の方は重視しないとはなりません。社会全体の動きもありますが、確かに知だけに偏って学力だけを追い求めていくと教育の道を誤ると思います。子ども達は豊かな心や社会性などつけなければならない力がいっぱいあるので、だからこそ先生方は恐らく大変な思いをしていると思います。

今の先生方の出勤・退勤の把握の仕方とどんな状況なのか説明をお願いします。

町内すべての先生方の出勤時間・退勤時間の記録を残し、毎月報告をしていただいています。過労死のラインと言われている80時間を越える先生方は小学校では教頭先生ぐらいですが、中学校では各学校2・3名はいるような状況です。状況としてやはり中学校では部活動、部活動が終わってからの教材研究ですとか、これからの時期であれば進学指導・進路指導等が入ってまいりますのでそういったところかなと思います。教材研究あたりも今は学校の方でやらないと、たとえば昔はUSBとかに記録を残し家でやっていた先生方も、今はそれを紛失した場合はそれで懲戒処分ということになりますので持ち帰れないということになります。となると学校でやるしかない状況にありますので勤務時間も延びる状況にあるのかなと思います。

出勤時間・退勤時間の記録を県に提出しないといけませんし、一人ひとりの先生の勤務時間を適正に管理するということが言われています。以前は遅くに帰ることもみられましたが、現在は、本人の健康のため、かなり気をつけて校長も見ているので、改善はしていると見えます。しかし、働き方改革は、勤務時間の数的な問題だけではなく、時間を短くすればすむ問題ではないので、中身が多すぎるという部分についてどう対策を練るのかというのが大事になってきます。やらないといけないことはもういっぱい決っていますので、解決策はなかなかないと思います。

(中略)

学力テストはすべきものか。学力テストは全員ではなく、抽出ではいけないものか。

(中略)

テスト結果を分析して今後の指導に活かすということはすごくいいと思います。ただし点数にこだわりすぎている先生が非常に増えているような気がします。

町内学校長と教務主任に集まっていたいただき学力向上推進協議会を行いました。各学校の取組みとしては、分析をして対策を練って自分の学校の弱いところを中心に取り組むという報告でしたし、どうやったら力をつけられるかというところに重点を置いています。

各学校からの取組みの詳細としては、どの学校も分析をし、授業だけでは特に学力が下の子ども達は救いきれないということで、授業ごとに特設の時間を設けてその中でそういった子ども達を救い上げる手立てをとっているようでした。

先生方の働き方改革は、ゆとりがなく子どもとゆっくり向き合ったり子どもの声に耳を傾けたりというのがもう少しできるような学校にしていかななくてはならないというテーマで、なかなか解決策は出ません。

大人になって仕事を始めても勉強すべきことが山ほどあるので、子どものうちにすべて詰め込もうとしすぎているのではないかと思います。基本だけしっかり教え、あとは自分で勉強するはずなので、学生時代にすべてを詰め込まなくていいという考え方の方が、皆にゆとりができていいと思います。本当に働き方改革をするのならそういうことを考え、時間を減らしても仕事を減らさないと、本当の改革にはならないと思います。

今、1つのまとめをしていただきました。国の流れはご存知のとおりですが、今学校で子どもが勉強していることが将来役に立つような未来でないといけません。覚えた知識が何年後かには使えなくなるかもしれないですし、AIの時代がきたら特に、その学び方をどう活かすかという将来を見通した教育に変わってくるものと思われます。学力調査は知識をみる調査なのでそのあたりのギャップがあることは十分わかっていますが、独り立ちするときを考え、学校というところがどういうことをすべきかは、教育のあり方として考えていかななくてはならないことだろうと思います。

(閉会午後4時36分)